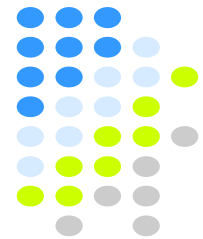


とっとり・グローバルウオッチ

とっとり貿易支援センター情報誌



2010年2月15日

VOL. 39

最新の上海 ～現地レポート～ 23

上海一注目度の高い百貨店で日本食品フェア開催

春節を控えた2010年1月29日から2月7日の10日間、浦東にある百貨店の第一ヤオハン（上海第一八佰伴新世紀商厦、以下ヤオハン）にて「第2回日本こだわり食品フェア」が開催された。

この食品フェアをご紹介する前に、ヤオハンと百聯集团についてご説明しよう。昨年の上海市における小売規模は4200億円を突破し、ヤオハンでの小売総額は約483億円であった。つまり、上海市における小売市場の1割強をヤオハンが担っているということになる。ちなみに、昨年大晦日から元旦までの年末年始商戦を勝ち取ったのもヤオハンで、2日間の売上高は53億円を記録し、35億円を売り上げた2位の新世界城を大きく引き離れた。ヤオハンとは百聯集团のメイン企業であり、この百聯集团はヤオハンの他にも百貨店、スーパー、コンビニ、商社などの流通産業を展開している。百聯集团の2008年総売上額は2兆3000億円にも及んだ。

このように、上海市内で最も注目度の高い百貨店での日本食品フェアということでその様子を視察してきた。出展場所は第一ヤオハンの2階催事場（メイン会場331㎡）と地下1階食品売り場（サブ会場50㎡）である。この食品フェアは都道府県としての出展ではなく、各企業による出展だったためか、既に市場で販売されている商品数が他の一般的な物産展より多かった。サブ会場である地下1階食品売り場には特別のブ

ースや販売員は置いていなかったが、メイン会場で調理実演販売をしながら、地下1階食品売り場で同じ商品を販売していることを紹介し、この食品フェア終了後も引き続き購入できるという点をアピールしていた。

北海道の産物、鹿児島焼酎、お茶、調味料、お菓子など約20社が出展していた。会場内は旧正月ムードを高めるために赤を基調とし、桜の花柄が入った派手な装飾だった。お客に人気だったのはやはり、実演販売と試食。お好み焼きやうどん、スイーツなど、その場で食べられる商品のブースは大混雑だった。

この食品フェアは他の物産展などと内容はそう変わらない。しかし、主催者によると、この食品フェアは、百聯集团が本格的に日本食品を取扱うため、継続的な取引を視野に入れたイベントの一つであるということだ。そのためか、既に販売実績のある企業にとっても力が入るイベントとなっていたようだ。

《ヤオハンの概要》

住所：上海市浦東新区張楊路501号

電話：+86-21-5836-0000（代表）

HP：<http://www.bldybbb.com/>

営業時間：9時半～22時



メイン会場の様子



看板

目次

最新の上海 ～現地レポート～	23	P 1
現地発！ 台湾月刊レポート	32	P 2 P 3
台湾コーデイナーより 見本市のご案内		P 3
貿易実務ミニ講座		P 4
中国東北部出張報告		P 4
お知らせ		P 5

世界の祝日 3月

- 韓国 1日 独立運動記念日
- ㄹ 1日 万仏節
- ㄹ7 8日 国際婦人デー

出所：ジェトロ通商弘報
「世界の祝祭日2010年版」から

現地発！台湾月刊レポート 32

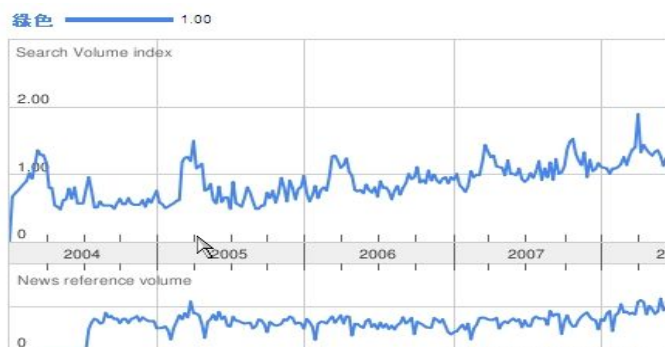
環境ビジネス、台湾の現状について

台湾において環境ビジネスは、必ずしも善意で行っているのではない。したたかに環境「ビジネス」として取り組みを始めている。スローガンを作り、ビジネスの裾野を思ったより広くしていく、このしたたかさに学ぶべきかもしれない。

台北で週末サイクリングを始めた。自転車は、ドイツ人が設計し台湾で製造しているものを購入した。第1回目は、台北から淡水というところまで往復50km。30年ぶりに乗った。自転車道路は、台湾とは思えないほどきれいに整備され、驚くほど美しい裏台北と自転車の進歩に驚いた。フロントライトもバックライトもLED。メーターは、自転車スポークに取り付けた機器より電波で飛ばしたものが、ハンドルに取り付けたメーターでスピードが表示される。ギアも一部内蔵。そして美しい。急坂もすいすい登れる。素晴らしい機械で何もかも新鮮である。週末は、台湾オジサンたちと一緒に台湾自転車産業の恩恵をうけている。(写真下)



さて、台湾政府は、二酸化炭素削減、環境産業の発展にとともに、今後4年間で5000億円の公共事業予算中、10分の1を環境工法、環境材料・環境商品利用に適用することに決定した。企業界でも、太陽光発電産業、LED産業が2015年には1兆円産業になると期待している。企業人は、環境産業は無限の商機を持っていると考えている。もちろん産業界が、競争し投資していることに関係しているが、地球温暖化に対して環境の急激な変化、天災が続いていること、特に台湾で昨年、過去に例がないほど酷い「八八災害」に遭遇したことを肌で感じ、資源消費型産業から環境に優しい配慮した産業の転換を目指すようになってきているように思われる。Google Trendを見ると「緑色」(環境関連の意味)のキーワードが急激に検索されていることがはっきりとわかる。(下図)



■環境保護の中に商機を探る

同時に台湾では、食についても大きな変化が生まれている。極端に地球資源を消費する現在の食のあり方を矯正する動きが出始めているのだ。「Vegan(菜食主義)」という考えだ。いかなる動物も傷つけない、地球にストレスをかけない生活スタイルである。これらは、現在世界で重要課題となっている問題だ。著名な悦智全球顧問公司董事長黄河明氏が言うには、自分が地球人である事を自覚し、台湾の多くの企業経営者たちが「Vegan」であることを主張し始めている、という。彼らは「Vegan」といっても、一週間に2回、全く魚、肉、卵、乳製品をとらない日を決めている、という菜食主義者である。企業内でも着々と環境保護に関する文化を広げつつ、一方で商機を探しているのだ。

二酸化炭素削減、廃棄物減少等、台湾企業は大企業から内外に対して、環境保護対策に力を入れ始めている。台湾で最も有名な企業である台達電では、すでに2004年から企業内集団に対して環境保護建築の精神と設計指標を示している。工場・建物に対して全台湾でトップクラスの環境保護建築を施している。もちろん環境ビジネスの中心は、太陽光発電やLED、パネル等だが、商機はこのように思いも寄らぬところにもあるのだ。

ちなみに、環境に最も先鋭的な台達電執行長海英俊氏のコメントも付記する。台達電は、従業員6万人、市価2千2百億台湾元の集団で成長が著しい。「今後力を入れるのは、LED照明、電気自動車、電子ペーパー、スマートグリッド、クラウドコンピュータ、これを六大事業とする。」「弊社は『環境、節電、CO2削減』を企業責任として行う。」と《緑色資本主義》の本を片手に語った。皆様も「グリーン資本主義」をぜひ読んで欲しい。ヒントがあるはずだ。

■素食はフードマイレージが少ない環境に優しい食事

先日、ジェトロ鳥取の依頼を受け、台湾素食企業をまわった。そこで目に付いたのが、「素食は、フードマイレージに優しい」というポスターであった。最初は、意味が分からなかった。ところで、「フードマイル」という言葉について(財)食生活情報サービスセンターはHPで、「イギリスのティム・ラング氏が、1994年に提唱した運動に由来する。具体的には、食料の生産地から消費地までの距離に着目し、なるべく近くでとれた食料を食べることで輸送に伴うエネルギーを出来るだけ減らし、環境への負荷を軽減しようという運動。これを日本では農林水産政策研究所が『相手国別の食料輸入手帳』に『輸送距離』を乗じた数値を『フードマイレージ』として提案している。この考え方は、我が国で地産地消を推進していく理由の一つと言える。日本で消費される大豆や小麦等は、そのほとんどを輸入に依存している上、我が国との距離が比較的離れている国が多い状況にある。」と述べている。一方、台湾では肉食に対する素食を、フードマイレージが少ない環境に優しい食事として推奨運動を行っているのだ。肉食は、バックグラウンドで大量の

穀物を消費している。素食は大豆をメインにしている
ので、日本との感覚とは微妙なのだが、これらも環境
保護産業として運動していることに気が付いた。畜産
も資源の浪費や環境危機といった側面を持っており、
大量の輸入飼料を必要とする畜産物の消費量が増えた
ことは食料自給率の低下の要因の一つとなっている。
日本での食料自給率の低下は、海外で枯渇が懸念され
る地下水を使うことにつながり、フードマイレージ
(食料の輸送距離)を増加させ、輸送のためのエネル
ギー消費を増大させている。(Wikiより)同時に、飼料
生産による大量の水の現地消費(バーチャルウォーター)、
水産業も環境保護産業と考えられることから、
環境保護産業というのは工業製品ばかりではなく、食
の世界までにも対象が広げられ、さまざまな商機が広
がっていることに気が付かされた。

畜産物 1 kgを生産するために必要な穀物等の量 (試算)			
牛肉	豚肉	鶏肉	鶏卵
11kg	7 kg	4 kg	3 kg

日本のフードマイレージは総量では世界中で群を抜
いて大きく、国民一人当たりでも一位となっている。

国名	総量	国民一人当たり
日本	9002億800万	7093
韓国	3171億6900万	6637
アメリカ合衆国	2958億2100万	1051
イギリス	1879億8600万	3195
ドイツ	1717億5100万	2090
フランス	1044億700万	1738

単位：トン×キロメートル Wikipediaより

ちなみに、ベジタリアンや素食については、善し悪
し、定義も様々な考え方があることを付記しておく。
私も台湾の食事が長いせいか、先日の健康調査で中性
脂肪が異常に高かった。医者から、油分の摂取を控え
ること、肉食を控えることを注意された。しかし台湾
にいる事を告げると「...それじゃ、しょうがないです
ね...」とさじを投げられ悲しかった。私は、魚が好き
で肉食をほとんどしない。一方、台湾で素食を食して
も油分の摂取が減るものではない。

今、台湾で、先進的な企業人たちが口々に言うスロ
ーガンは、「少吃肉、騎脚踏車、節約消費」日本語訳
すると「一週間に数回は、素食を食べ、自転車に乗ろ
う、簡素な消費！」である。そして緑色商機の発見・
開発を既に開始している。台湾において、環境ビジネ
スは必ずしも善意で行っているのではない。したたか
に環境「ビジネス」として取り組みを始めている。私
も形からまねをしはじめた。

最後に「東京ビッグサイトで3月3日から5日まで
開催されるPV EXPO 2010—第3回国際太陽電池展—
。昨年に引き続いて台湾企業16社が台湾パビリオンとし
て出展いたします。」とのこと。

TAITRA 昨年レポート：

<http://www.taitra.gr.jp/pvexpo/pvexpo2009report.html> も参考にされたい。

《参考文献》

工商時報 2010/01/26

Wikipedia

財訊 2020/02/03

(財)食生活情報サービスセンターHP



【(株)スナーク 富田】

台湾コーディネーターより見本市のご案内 「2010年台湾国際シニアライフ／ヘルスケア見本市」について

高齢化、少子化問題が注目されつつある台湾では、シ
ルバー産業が経済発成長の新エネルギーとして本格的に
拡大し始めています。

スナーク(台湾法人：スナークアジア)は昨年「台湾
国際シニアライフ／ヘルスケア見本市」において日本企
業の出展支援を行い、手ごたえをつかみました。今年は
昨年の実績に基づき、さらに台湾保健福祉市場にご関心
のある日本企業を共同出展し、シルバー商機を図りたい
と考えております。ついては、下記のとおり今年6月に
台北市で開催される本見本市の参加企業を募集します。

■詳細、申込方法

鳥取県産業振興機構海外支援グループのホームページ
からご確認いただくか、同グループまでお問合せ下さ
い。

電話 0857-52-6703 (担当：早川)

■概要

会期：平成22年6月24日(木)～27日(日) 10時～18時

会場：台北市世界貿易センター展覧一館

出展商品：高齢者、障害者向けの日常生活用品、食品、
施設用備品、入浴・トイレ用品、美容関係

取引条件：

①1ブース(1.5×1.2×.5m) 98,000円

②輸送経費等は出展者が負担

③必要な基本催事用器具は実費請求

④1ブースあたり補助員が2名以上必要な場合、2名
以降の経費については出展者が負担

現場販売：売り上げの20%をスナークの手数料とする。

申込期限：平成22年2月25日(木)

*出展代行の形式で行うため、出展者が自ら台湾にお越
しにならなくても結構です。

【(株)スナーク 富田】

貿易実務ミニ講座

インコタームズって何？

■貿易条件

輸出入にかかる売買契約をする際、双方にとって最も大切なものが「貿易条件」である。FOB、CIFなど、耳にしたことがある方も多いと思うが、これら貿易条件は価格算定の基礎となり、また貨物受渡時期を示し、それと同時に保険条件にも関わっている。

異国間での売買契約では、輸出者と輸入者の負担範囲が明確に規定されていないと、それぞれの解釈が異なり紛争の原因となってしまう。そのようなケースを避けるため、定型的な貿易条件が生まれた。貿易条件は、売買する当事者間の、費用負担の範囲、貨物の危険負担の範囲を同時に示している。

■インコタームズ

インコタームズとは、国際商業会議所が貿易条件の解釈に関する国際規則として制定した解釈規準である。時代の要求に合わせて何度か修正、改正、追加、削除などが行われ、現在の最新版は2000年版である。

しかし、インコタームズは法律ではないため、取引条件として使用するためには、契約書上にその旨を明記しなければならない。

13条あるインコタームズの中で、よく使われるのは次の3つである。



■FOB (Free on Board)

「輸出港本船甲板渡価格」という。輸出者が負担するのは、輸出港の本船上で貨物を引き渡すまでにかかったコスト（仕入れ価格、梱包費、国内輸送費、通関・船積み諸経費、輸出者利益など）。

■CFR/C&F (Cost & Freight)

「運賃込本船渡価格」という。FOBに、運賃が加わったもの。

■CIF (Cost, Insurance & Freight)

「運賃・保険料込本船渡価格」という。FOBに、運賃と保険料が加わったもの。

なお、FOB、CFR(C&F)、CIFの3つの条件とも、輸出者から輸入者への貨物の危険の移転は、すべての貨物が本船の舷側手すりを越えたとき、とインコタームズで規定されている。

【鳥取県産業振興機構海外支援グループ 早川】

中国東北部出張報告

環日本海貨客船航路の利用可能性について探る！！

環日本海貨客船航路（境港～韓国・東海～ロシア・ウラジオストク）の貨物及び観光客の利用可能性を調査するために、環日本海経済活動促進協議会、鳥取県、境港市及び境港貿易振興会による訪問団（団長：足立環日本海経済活動促進協議会会長）7名が吉林省及び黒龍江省の人民政府等を訪問面談した。

吉林省人民政府とは、外事弁公室や博覧会事務局と意見交換し、来年の「中国吉林・北東アジア投資貿易博覧会」について概要説明や出展依頼を受けた。また同博覧会における環日本海貨客船航路のPR方法等についても博覧会事務局と協議し、PRできるようになった。

長春日本商工会とは、トヨタやマツダの中国での生産状況、日本からの物流ルート、DBS航路の利用可能性等について意見交換した。

吉林大学とは鳥取県と同大学との人事交流・研究分野について懇談した。

また、黒龍江省人民政府へは鳥取県としての正式な訪問は初めてであったが、外事弁公室、商務庁、交通庁とそれぞれ活発な意見交換を実施した。商務庁ではHPによる省内企業へのDBS航路のPRについて言及があった。また交通庁では高速道路や鉄道、空港等交通インフラの現況や建設計画など聞くことができた。

中国出張を通じてすぐには貨物や観光客の誘致につながらないが、中国東北部の貨物や観光客を呼び込むための戦略や方針を立て、それを着実に実行することが大切だと感じた。



黒龍江省商務庁との意見交換

【境港貿易振興会 永見】

お知らせ

中国四国地域農林水産物等輸出促進センター

シンガポール伊勢丹による 最新消費動向の紹介 & 中国四国からの商品提案

昨年より「四国フェア」を開催されているシンガポール伊勢丹の食品部門統括責任者をお招きし、中国四国の農林水産物・食品等の輸出拡大に向けてシンガポールの最新消費動向を紹介するとともに、中国四国の意欲ある事業者様からの商品提案会を実施します。ぜひご参加下さい。

- ★日時：平成22年3月3日
13：30～16：40
- ★会場：アイテムえひめ4階
(松山市大可賀2丁目1番28号)
- ★定員：30名
- ★参加費：無料
- ★申込期限：2月24日
- ★問合せ、申込先：
中国四国農政局生産経営流通部
農産課(担当：藤元)
電話 086-224-4511

鳥取県産業振興機構よりご案内 「FOOD TAIPEI 2010」 出展企業募集のご案内

当機構では、海外初心者の方の県内企業に海外販路開拓のきっかけとなる場を提供する目的で、過去4年連続で出展している台湾国際食品見本市「FOOD TAIPEI」に今年も出展することし、出展者を募集しています。

- ★会期：平成22年6月23日～26日
- ★会場：台北ワールドトレードセンター(TWTC)
南港ホール
- ★来場者数：40,724人(昨年実績)
- ★当機構ブースにおける出展については、新規企業を優先し、同一企業による出展(海外チャレンジ補助金による出展も1カットとする)は3回までとします。
- ★申込期限：2月19日
- ★問合せ、申込先：
鳥取県産業振興機構
海外支援グループ(担当：早川)
電話 0857-52-6703

ジェットロ鳥取よりご案内 ～やってみよう、貿易～

本講座では、国際経営法務コンサルタント中矢事務所の中矢一虎氏を講師として迎え、貿易の初歩の初歩からわかりやすく解説いただきます。これからの経営多角化・安定化の一つの手段として、ぜひこの機会に貿易の世界を覗いていただき、今後のビジネスにご活用ください。皆様のご参加をお待ちしています。

- ★日時：平成22年3月16日、17日
10時～17時
- ★会場：ホテルハーベストイン米子
(米子市弥生町8-27)
- ★主催：ジェットロ鳥取
- ★参加費：一般5,000円
割引価格もあります。お問合せください。
- ★申込締切：3月12日
- ★問合せ：
ジェットロ鳥取(担当：蒲田)
電話 0857-52-4335

編集後記

鳥取県では、鳥取の美味しく、安心・安全で魅力ある県産食品をPR・販売するとともに、県内企業の台湾市場での販路開拓を支援するため、2月25日(木)～28日(日)、台湾中部商圏の中心地である台中市で鳥取県物産展を開催します。会場は同市内の百貨店「中友百貨」で、県内企業7社が出展する予定となっています。

もともと台湾鉄道西部幹線の中継地であった台中市は、現在、新幹線で北の台北市や南の高雄市まで、片道1時間足らずで行くことができ、南北交通の要となっています。また、台湾で最も台風の被害に遇わない都市とも言われており、台湾人が住みたい都市No.1に選ばれたようです。人口約107万人(09年統計)の都市ですが、今年の12月には台中県との合併が予定され、さらに大きな都市として生まれ変わります。

鳥取県物産展と同時期に台湾を訪問される方は、ぜひ台中市へお立ち寄り下さい。【r】

『とっとり・グローバルウォッチ』では、皆様から、内容のご提案や掲載されている情報へのご意見・ご感想をお待ちしております。メールでお気軽にお寄せください。また、受信希望(無料)の方は下記までご連絡ください。

お問い合わせ：(財)鳥取県産業振興機構企業支援部
海外支援グループ(担当：早川)
E-mail: kaigai@toriton.or.jp
TEL: 0857-52-6703 FAX: 0857-52-6782

とっとり貿易支援センター 貿易に関する相談はこちらの窓口へ

【東部窓口】

- (財)鳥取県産業振興機構企業支援部
海外支援グループ
TEL 0857-52-6703
- ジェットロ鳥取貿易情報センター
TEL 0857-52-4335

【西部窓口】

- (株)さかいみなど貿易センター
TEL 0859-47-3900
- 境港貿易振興会
TEL 0859-47-3905

【その他関係機関】

- 境港管理組合港湾管理委員会事務局
TEL 0859-42-3705
- ジェットロ貿易相談デスク
TEL 0859-45-2203